



第6分団・小型ポンプ操法指揮者  
丸山繁さん（明科光）



周りの人に恩返しをしたい。

大工をしています。長野市から地元に戻ってきたと同時に入団しました。生まれ育った地域に少しでも恩返しをしたいという思いもあり、誘いを引き受けることにしました。

これまで活動で印象に残っているのは、6年前の台風23号での出動。みんなで土のうを100個以上作り、河川の決壊などに備え、夜通し警戒にあた

りました。もし、消防団に入っていなければ、そのようなことをしている人たちの存在を知らなかったと思います。

ポンプ操法の大会は、「優勝させてあげたい」と言ってくれた皆さんに恩返しができてホッとしています。30代になってまだ、学生時代のような緊張感と感動を味わえるのは、消防団ならではの良さだと思います。

本業は資材メーカーの営業です。入団して10年ほど。穂高神社のお船祭りにかかわる青年団で活動していたときに声を掛けられました。同じ年の友人がいたこともあり、入団を決めました。

入団したばかりのころは、やっぱり面倒だと思っこともありました。それでも、時間がたつにつれて仲間が増え、地域のおじさん、おばさんにも顔を覚えてもらい、温かさを実感するよ

うになりました。地域では、「どうだい」と声をかけてくれたり、心配をしてくれたりもします。家族でもない、職場でもない仲間たちとの何気ない雑談もまた、いいものです。

ポンプ操法の大会では、部が1つになり優勝できました。いろいろな人の意見を聞き、互いに話し合うなど、コミュニケーションがしつかりとれる関係になったことが勝因だと思います。



仲間との何気ない雑談。いいものです。



第9分団・ポンプ車操法指揮者  
唐沢孝之さん（穂高）

もうひとつの顔へ…

# 変身！

現在、市消防団の団員数は980人。そば屋さん、営業マン、団体職員、主婦など、本業はさまざまです。団員たちは、どのような思いを持ちながら、活動にあたっているのでしょうか。このほど、松本消防協会のポンプ操法・ラッパ吹奏大会で優勝した第6分団と第9分団、連続入賞を続ける音楽喇叭隊の団員に聞きました。

第3分団に在籍しながら、音楽喇叭隊に所属しています。ラッパは昔、災害現場の通信手段として使われていましたが、現在は、団の式典やイベントでの広報活動が中心です。

平日はエ

えないことも見えてくる気がします。そして、これまで続けてこられたのは、ズバリ、活動が楽しいからです。いろいろな年代の人と知り合えて、つながりも増えてま

た。新しい仲間が増えることが消防団の魅力です。

音楽喇叭隊は、地域のさまざまなイベントに参加しています。多くの皆さんに練習の成果を聞いていただければと思います。

仕事も、消防も全力で。



第3分団・音楽喇叭隊  
吉尾大樹さん（豊科高家）

## News

### W優勝の快挙で県大会へ

松本消防協会主催のポンプ操法・ラッパ吹奏大会が7月4日、山形村で行われました。市からは市大会を勝ち抜いた4チームと音楽喇叭隊が出場。結果、小型ポンプ操法の部では第6分団（明科方面隊）、ポンプ車操法の部で第9分団第3部（穂高方面隊）がそれぞれ優勝。ラッパ吹奏も準優勝となりました。この大会で市消防団が優勝するのは、両部門とも初となる快挙です。



市長に優勝を報告（7月7日）